令和元年度九州森林管理局林野公共事業評価技術検討会議事概要
(完了後の評価)

1. 日 時 令和元年7月31日(水) 10:00～11:30
2. 場 所 九州森林管理局4階第2会議室
3. 出席者 技術検討会委員 藤掛委員長、寺岡委員、黒川委員
九州森林管理局 森林整備部長、計画保全部長、企画調整課長、
治山課長、森林整備課長、専門官(災害調整担当)、
監査官、監査係長
4. 議 題 令和元年度完了後の評価について
完了後の評価
森林環境保全整備事業
白川・菊池川森林計画区、大分南部森林計画区、五ヶ瀬川森林計画区、
広渡川森林計画区、北薩森林計画区

5. 議事概要

(専門官(災害調整担当)より完了後の評価結果(案)について、白川・菊池川森林計画区を代表事例として説明、その後質疑応答)

(委員)

白川・菊池川森林計画区の個表(案)の⑥に、今後の課題とあるが、今後の課題をいつ時点でとらえるかで書き方が変わってくるのではないかと。事業年度としては26年度までであり、26年度時点ということであればこの表現で良いと思うが、現時点から事業を振り返って今後の課題を考える場合、平成28年に熊本地震があり、その後九州北部豪雨もあった。それは取りまとめる上でその地域の今後の課題として触れておくべきではないか。

⑤の社会情勢の変化、⑥の今後の課題どちらにどの時点で記載するかについては確認をお願いしたい。

(九州局)

事前評価は最新のものと取りまとめており、完了後の評価については各種データ等は平成26年時点であるため、完了後の評価を踏まえて、新しく始まる計画に今後の課題として加えていきたい。

(委員)

完了後の評価で点検することの一つとして、①算定基礎要因の変化とある。例えば五ヶ瀬川計画区は便益が平成20年度評価時点11.15が今回5.10と半分くらいになっている。大きく変わった理由について分析を行うことも評価の目的であると考えますが、こういう場合は便益が大きく下がるといったものがあるのか。

(九州局)

五ヶ瀬川計画区については事業の計画自体が小さいこともあり、また、算定方法が変わった事も要因として大きい。総費用は、平成20年度評価時点の3倍となっており、森林整備と林道整備の区域が同じ場合便益が見かけ上小さくなる場合があるのではないかと。さらに、例えば路網については、辺りの森林が高齢の場合便益が低く出る傾向がある。

(委員)

完了後の時点では、補正予算が入ってきている。

最初の事業費、計画されたものをどのくらい実行しているのか。この数字をどう読んでいいのかが解り難いため、御検討頂きたい。

(委員)

関連で、各個表①の総便益。総費用で括弧書きの平成20年、21年度の評価時点の額は、今回計算し直されたものか。

(九州局)

前のままである。

(委員)

今回便益計算の数字が変わっている。平成20年、21年度に評価時の値と、今回使った数字で違ってくると思うが、内容的にどれだけ変わっているかについては確認しておいた方が良くはないか。

(九州局)

検証する必要があると考える。

(委員)

五ヶ瀬川の土呂久林道は、改良と開設が同時に行われているのか。

(九州局)

同じ路線で改良と開設ということはあまりないが、マニュアルでは改良と開設を一緒に計算することとなっている。

(委員)

具体的な個別の評価のやり方について、森林整備・間伐によって将来の人工林の主伐量が変わる事の評価だと思うが、それを価格で評価して金額を算出している。間伐をしなくても主伐は出来るのではないか。間伐時点からそう経過していない所と書いてあるので、設定としてどうなのか。最初に植林をしたとか、初期保育をしたとかであれば説得力があるが、利用間伐の評価としてこれでいいのかという疑問がある。

(九州局)

二点目の御質問については、複層林施業を行う義務があるため、間伐からそう経たない林分でも主伐としての複層伐が若干はある。一点目の、今利用間伐がなかった場合に主伐の効果が出なくなるのかということについてはもっともかなという気がする。

(委員)

Vt主伐というのは、伐採材積なのか、生産材積なのか。その後に単価を掛けてあるが、歩留まりを掛けるべきなのか。生産材積として収穫表から出すと書いてあるが、歩留まりを掛けた数字なのか、計算上気になる。御確認頂きたい。

(委員)

県・市町村からの意見について、直接事業に関しての厳しい意見等はないようだが、意見は

⑥の今後の課題等の地元の意見に書き込むのか。

(九州局)

⑥に書き込むこととなる。

(委員)

伊佐市からの意見で、伐採跡地からの土砂流出を危惧する声が寄せられているというのは、国有林の話なのか。そんなに広い面積では皆伐せず、誘導伐の形で伐採されていると思うが。

(九州局)

一部の分収造林は広い面積での皆伐の可能性もあるが、民有林とも連携を図って参りたい。

(委員長)

意見が出尽くしたようですので、これまでの説明を踏まえ、技術検討会による意見の取りまとめを行いたい。

完了後の評価においては、「費用便益分析の結果、森林・林業情勢の変化、地元の意向、地元の意向、また、森林整備事業の積極的な実施により、水源涵養や山地保全、木材生産等の森林の持つ多面的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認める。」として取りまとめてよろしいか。

(委員)

異議なし。

以上